

山行報告

■ クリンソウ群生&三嶽

<女性委員会>

- 日 程：5月10日(火)
- 参加者：L三木(悦) SL瀧原 垣内 笹木 澤田(律) 田羅間 徳本 山本(清)
- 行動記録：加東市役所(8:00着)8:30発ーみたけ会館(9:20着)9:30発ー火打岩駐車場(9:40着)9:50発ー登山口(10:00着)ー鳥居堂跡(10:45着)10:50発ークリンソウ自生地(11:05着)11:40発ー大岳寺跡(11:45着)11:55発ー三嶽(12:25着)13:10発ー鳥居堂跡(14:00着)14:10発ー火打岩駐車場(14:50着)15:25発ーみたけ会館(15:35着・WC)15:45発ー加東市役所(16:30着)

◆ クリンソウ群生と三嶽

田羅間

三嶽山火打岩登山口から出発。いきなり急なのぼり、整備された植林の道を登って行く。天気は良く暑い中の急勾配の道、汗をかき、一步一步と進んで行く。ようやく尾根に出ると風が涼を運んでくれ、ホッとする。

鳥居堂跡の看板、はるか昔、奈良・大峰よりも栄えた寺社があったとか。

一息ついてクリンソウの自生地へ。脇道を下ると一面の花畑。「キレイ!」「すばらしい!」と皆口々に歓声。

しんどさを忘れさせてくれた。ゆっくり見て回り大岳寺跡コースを登り、三嶽山頂へ。頂上で昼食。彼方の街や山々がのぞめ、降り注ぐ陽ざしの下おいしい弁当に舌鼓、しばしのおしゃべりで疲れも吹き飛ばす。下山は同じ道を下る。すると突然、道の下方、木々の間にすばらしい



クリンソウの花畑。登りに見たところとは違う、狭いながら密集した花。こちらの方が自然で美しいと見とれる。その後一気に下り駐車場に着く。

天気とクリンソウと楽しい仲間たち、計画してくださったリーダーさん、運転してくれたドライバーさんありがとうございました。命の洗たくができた一日でした。

■開聞岳と指宿温泉・知覧平和公園

●日 程：5月12日(木)～13日(金)

●参加者：L平井 SL春本

●行動記録：

(12日) 平井宅 5:00－神戸空港 6:30－空港発 7:25－鹿児島空港着 8:35－鹿児島レンタカー
－9:06 発－霧島神宮着 9:50－神宮発 10:44－峠ラーメン 12:15－鹿屋航空自衛隊
13:55－鹿屋 14:55 発－桜島フェリー16:00－平川動物園付近 17:30－民宿千成荘
(18:30 着) [走行距離 213km]

(13日) 民宿 8:00 発－開聞岳登山口 8:24－池田湖－西大山駅 9:10－玉手箱温泉 9:46－道
の駅指宿 10:20－知覧特攻記念館 12:00－記念館発 14:51－天文館鰻 15:30－鰻出
16:43－鹿児島レンタカー(17:57 着)－鹿児島空港(19:00 着)20:35 発－神戸空港
(21:10 着) [走行距離 194km 合計距離 410km]

◆迷走選択の開聞岳

春本

高校の修学旅行のバスガイドさんが桜島の噴煙を『へ(屁?)』と言ったことしか記憶にない鹿児島へ45年ぶりです。スーツケースに前日買ったゴム長を入れ神戸空港へ、機内持ち込みで酸素缶没収され手荷物のミニ五徳ナイフでもたつき幸先暗く期待薄でスタート。

案の定飛行機が着くころは雨雲の中でした。レンタカー屋も一般住宅でオヤジの対応もいまひとつ、車は旧型アクアで雨で滑るスタッドレス、極太ハンドルカバーに広角ミラー、名のある業者で借りるのがいいとこのとき思いました。極め付きはナビの故障で自車位置が定まらないので、自分のタブレットを股に挟んで運転する始末。

一日目は山登りを諦めて、空港から近い霧島神社へ傘をさしての参拝、ここから宮崎県境の高千穂峰や韓国岳、えびの高原が間近なのですがまたの機会にします。

サブタイトルは知覧ですが、大隅半島を南下して鹿屋へ向かいます。雨中走行の車内で ♪花は霧島 煙草は国分 燃えて上がるはオハラハー桜島 と歌いながら鹿屋



自衛隊航空基地へ、鶉野と一緒に海軍資料館を見学、桜島からフェリーで鹿児島市の城山公園の西郷どん見て、指宿へ向かいます。

途中平井リーダーの同僚宅を訪ねると、感極まって来て良かったとしみじみ思ふ。

民宿千成荘のかつお、きびなごと新鮮な夕食の後に砂蒸し会館砂楽へ行きました。

この辺りは千箇所以上温泉が湧き、重い砂に囲まれながら20分以上温まりました。

雨もやや小降りでしたが開聞岳は良く見えず、宿の主人に聞くと何とか登れるんじゃないとか言うので諦めていた予定を変え、登山口へ急行しましたが周りはガスで真っ白です。

管理事務所に立ち寄ります、外国人らしき二人連れの登山者は登ってそうでした。

雨も多くなる予報なので断念して、近くにあるJR最南端の西大山駅やたまたま箱温泉へ。

海に張り出した竹山が幻想的で、一番の絶景でした。

指宿道の駅でおみやげ、食事を済まして池田湖のイッシー像見てから枕崎港から知覧へ向かいました。町全体が郷愁に包まれていました。展示物が多くてかなりの時間がかかります。これから夕食をとってから空港へ向かうのですが余裕を持って予定を逆算します。

市内の天文館で、唯一のうなぎやさんへ寄りました。鹿児島県は意外と生産量は全国一だと。でも食べさせてくれる店はここよりほかは見つかりません、、、不思議、、、。

レンタカー屋のオヤジが留守になると、勝手なことで時間に振り回されて空港までせかされながら帰路につきました。空港で今度はリーダーがゴム長で check されてました。

♪ (ハ ヨイヨイ ヨイヤサ！)

◆リーダーコメント

平井

春本組長、今回は開聞岳も登れず大雨の中を、400kmも運転頂きお疲れさまでした。

確かにレンタカーでは「安かろう 悪かろう」を身をもって体験しました。

また僕にとってメインの、平川動物園近くの同僚宅訪問。僕はご実家を一見して、確認のみにしようと思ってましたが、組長の「今 訪問しないと一生後悔する」との強い後押しがあり。勇気を振り絞り「ピーンポーン」、、、、、沈黙！ ご両親とお会いすることが出来、なんとご本人も数日前、家に帰ってたとのことでした。

奇跡でした。ほんとに春本さんお力添え頂き、ありがとうございました。

■鶴嘴山

<初めての山歩き教室・実技Ⅱ>

●日 程：5月14日(土)

●参加者：1班 [サポート] L砂川(延) SL安田 苦瓜 春本 松本(聡) 村上

[教室生] 臼井 田中 橋本 松田 松本 三木 宮下 宮本 八幡

2班 [サポート] L木村 SL尾内 天野 生永 上田 垣内 木下 黒本

[教室生] 稲見 江崎 岡林 奥藤 菊川 北川 木村 小林 敷田 柴田

●行動記録: 東鯨崎駅 9:05 発～摩崖仏(9:15 着)9:25 発～古宮天満神社(9:30 着)～屏風岩(10:10 着)～鶴嘴山(11:10 着)11:30 発～大正池(12:10 着)～東山公園(13:00 着)13:40 発～志んぐ荘(13:45 着)～播磨新宮駅(14:05 着)

◆鶴嘴山「初めての山歩き教室」第二回目実技

教室生・北川

「雨が降るのに山登り(ﾟдﾟ)！」「初めての楽しい山歩きのはずが、修行？」「降水確率50%以上やから前日の夜に中止の連絡が入るはず…」教室の皆さんも少しはこのように思っていたはず。

レインコートについては上田さんからワークマンに安くいいのがあるよと教えていただきギリギリ前日に購入。天気予報を見る限り14日の降水確率はどんどん高くなり70%…夜になっても中止の連絡は入らない。家族からも雨の中(雨の後)の登山について心配される…。会長さんはじめ会員さんも「雨でも行きますよ～」と、「雨が何か？」といった感じだったなぁと思いつつ中止の連絡を諦めた。

朝には雨も上がり9時に東鯨崎駅に集合した時、多くの方が足元にカバーを巻き始め、色ん

なにおいがしてきた。「何を巻いてる?」「何のにおい?」いきなり自身の準備不足に不安を感じながら出発。

出発から数分後、揖保川沿いに以前渡し舟があったことを示す石碑があり、対岸の山々が「寝釈迦の渡し」と呼ばれ、今でも手を合わせる人が多いと知る。その少し先、鶴嘴山岸壁に彫られた「鶯崎磨崖仏」は、紀年銘のある磨崖仏として県下最古のもので、当日は顔が緑の葉に覆われており、お地藏さんもマスクしているように思った。

登山スタートして岩場を進み天然記念物屏風岩の岩頭に到着、遮るものがなく素晴らしい眺めを楽しみ、鶴嘴山 236.2mのピークへ到着し皆で記念写真(o^_^o)＝



そこからの下りが急だし雨で湿ってるし滑るし大変!「ロープを持つときは前の人から」「急な下りは前の人との間隔をあける」「急な登りは歩幅を小さくする」と教わる。

前回の京見山と違い、下りが急なので膝の力と滑ると怖いという緊張感を味わった。ようやく林道に出て気を抜いていると、ヒルが皆を待ち構えていたように喰らいついて来る。林道を抜けてズボン上げると一匹おる!とパニック(ﾟдﾟ)!既に丸くなってる!すかさず会員さんや周りの方にスプレーや薬をかけて頂き安心。生まれて初めてヒルを見たし、ヒルにやられた記念日。手当して頂いた方には本当に感謝です。

東山公園に到着して少し遅めのお昼ごはん。一緒に食べていたOさんは「あーお腹すきすぎたのと緊張感であんまりお腹へってないなあ」と言っていたのに気が付けば完食、そしてデザートも完食!「あれ?お腹減ってなかったのでは?」と言うとOさん「ホンマやあ、ぎゃはははあつ」と楽しいひと時を過ごし、恐怖満点のゆらゆら揺れる吊り橋を渡り新宮駅へ向う。電車で会長さんと一緒の席になり貴重なお話も聞いて最後、「今日休んだ会員さんに代わり感想文を書くように」と言われ、教室生としての感想を書いている次第です。

今日の実技では歴史と雨の後・岩場の多い登山や虫よけ・薬などの準備物について学び、たくさん笑い、そして色んな恐怖を味わった一日でした。最後に、鶴嘴山はつるはし山だけに、つるつる滑る山だった～。失礼いたしました。

◆第22回初めての山歩き教室 鶴嘴山

教室生・三木

5月14日(土) 心配していた天気でしたが当日は雨も止み、とても可愛らしいお姿の磨崖仏に安全祈願して山歩きが始まりました。

稜線に出ると、揖保川と姫新線、また、家島も見え絶景でした。

万緑の中、心地よい風も吹き気持ちよく歩くことが出来ました。

しかし、連日の雨の影響で登山道は大変滑りやすく、注意しながら下山しました。

若い時と違って機敏に対処することは難しく、体力もおとろえています。日々、地道なトレーニングを重ね、体力をつけないと山は厳しいと実感しました。

お世話してくださった会員の皆様、教室参加者の皆様のおかげで無事に山行を終えることができ感謝しております。

■佐渡島

<ゆっくリズム>

●日 程：5月16日(月)～20日(金)

●参加者：L藤原(千) SL澤田(律) 佐野 瀧原 田羅間 橋本(万) 平石 矢根

●行動記録：

(17日) 新潟駅(8:40 着)9:40 発ー両津港(10:46 着)11:10 発ーアオネバ登山口(11:27 着)11:48 発ー休憩ポイント(13:05 着)13:20 発ーアオネバ十字路(14:25 着)14:35 発ードンデン高原ロッジ(15:30 着)15:40 発ー尻立山(16:00 着)16:08 発ードンデン高原ロッジ(16:25 着)

(18日) ドンデン高原ロッジ 5:43 発ーアオネバ十字路(6:19 着)6:27 発ーマトネ(7:26 着)7:44 発ーツンブリ平(8:55 着)9:05 発ーイモリ平(9:52 着)9:58 発ー天狗の休場(10:46 着)11:01 発ーあやめ池(12:07 着)～金北山(13:15 着)13:38 発ー白雲台(15:19 着)15:45 発ー北沢浮遊選鉱場跡(16:20 着)16:35 発ー道遊(16:45 着)

(19日) 道遊 8:06 発ーきらりうむ佐渡(8:16 着)8:48 発ー佐渡金山(9:00 着)11:05 発ー尖閣湾揚島遊園(11:25 着)11:45 発ー塩工房(12:10 着)12:25 発ー昼食(13:00 着)13:45 発ー尾畑酒造(13:50 着)14:00 発ーたらい舟(15:00 着)15:30 発ートキの森公園(16:15 着)16:45 発ーみなみ旅館(17:00 着)

(20日) 両津港 9:30 発ー新潟港(10:37 着)10:55 発ー新潟駅(11:10 着)13:20 発ー姫路駅(19:39 着)

◆花の饗宴ロード・アオネバ登山口からドンデン高原へ

瀧原

佐渡の山は大型の獣がないので多くの花が育ち、千メートルの標高でも高山の花が咲いている。金北山は花の山として有名で以前より行きたいと思っていた。ゆっくリズムのメンバーがリーダーを中心に半年以上にわたり綿密に計画を立ててこられた。その山行に参加できて感謝している。金北山には残雪があるためアイゼン、シュリングを準備し、できるだけ他の荷物は軽くするようにした。コロナ禍以降初めての泊山行で、わくわくドキドキ。

16日夜、大阪のウイラー夜行バスの乗車場所へ。メンバーの一人が朱鷺のワッペンをみんなに作ってきてくださった。それをザックにつけ、“みんなで佐渡の縦走がんばるぞ！”と仲間意識を高め合った。

17日朝、好天。新潟駅から港へ移動してジェットフォイルに乗船。これは海の上を走る船でシートベルトをして全員指定席に座る。時速約80kmで走るが、全く揺れず船に乗っているとは思えないぐらいだった。1時間程で佐渡の両津港に着いた。

下船後、タクシーでアオネバ登山口へと向かう。そこは車が3、4台止まるほどの空き地がある登山口だ。梅津川上流の渓谷沿いに5kmの山道を登り、途中、沢の

渡渉を4回する。標高差470m。ぬかるんだ道を歩き始めてすぐに花々が目についた。柔らかい緑の樹林帯を緩やかに上っていく。足元には可憐な花*花*花。道幅は狭く、すぐそばまで花が咲いているのでストックで花を傷つけないように注意しながら歩いた。「わぁ〜きれい」「この花、なに？」の声が飛び交い、その度に花に詳しいメンバーが名前を教えてくれる。



エンレイソウ、キクザキイチゲなどいろいろな花を眺めながらゆっくり歩を進めて行けば、いつの間にか高度を稼いでいた。

落合というところを過ぎたあたりから道は険しく急登になってくる。しかし、リーダーの絶妙のペース配分とあふれるほどの花のおかげで、みんなは元気だ。1時間余りたったところでお昼休憩。アオネバ十字路に近づくにつれ道はぬかるみ、青い粘土が見られた。これが名前の由来だそうだ。



ひたすら登りの道を歩き始めて2時間半、やっとアオネバ十字路に着いた。この手前にはニリンソウの群生地やザゼンソウの群生もあり、シラネアオイがあちこちにいっぱい咲いており感動！ここからはサブコースに変更してドンデン山荘まで行き、尻立山へ行くことになった。縦走路入り口を過ぎると長い舗装路になり、レンゲツツジの蕾が迎えてくれた。

山荘にザックをおいて尻立山へ向かった。20分ほど緩やかなブナ林の道を上れば、急に空が開け、高原が広がった。尻立山の頂上はすぐだった。広々としたドンデン高原の中の尻立山である。下にドンデン池や避難小屋が小さく見える。果てしなく広い日本海の水平線を眺め、振り向けば本土の新潟の山もうっすらと見える。西方には明日向かう金北山がどんとそびえていた。佐渡島の雄大な景色を楽しんだ。

夜、湯につかり、充実した1日の疲れを癒やした。金北山の残雪の直登路（ザイル有）に備えてシュリングで自己確保の仕方を確認し合った。明日も好天、どんな花に出会えるかなあ、楽しみだ。

最後に花を守る人からのメッセージです。登山口の看板に書かれていました。

「・・・採取禁止となっているが法律より前にその花の気高さとしに敬意を払いたい、そして、共有する感動を信じたい、この山に入る人の心を信じます。 ドンデン山荘」

◆佐渡島最高峰！金北山へ！

佐野

5月18日(水) 佐渡島に島流し(笑)ではなく2日目！可愛いトンデン高原ロッジに宿泊したにもかかわらず、残念ながら昨日の疲れで朝日を見に行く事が出来ませんでした。今日は、お天気も良く爽やかな山行が出来そうです。

朝5:43 ロッジを出発しアオネバ十字路・マトネ笠峰(937.5)の道すがら、シラネアオイ・オオイワカガミ・ヒトリシズカ等々尽きること無く可愛い花々が出迎えてくれました。

(8:55)ツンブリ平から(9:50)イモリ平・真砂の峰(ザレ場)まで登ると、樹林帯は無くツツジやまだ咲いてないシャクナゲの低木があり景色は一望でき、爽やかで心地よい稜線歩きが出来ました。(10:45)天狗の休場から(12:45)あやめ池の間に、珍しい白いヤマシャクヤクの蕾をTさんが発見して下さりラッキーでした。そこから残雪を歩いて行くと、遠くからは階段だと思っていた所が、急坂でザイルを持って蹴り込んで登るので黒くなり階段の様に見えたのでした^_^ 昨夜練習したロープワーク(スリング・カラビナ)は、取付けてあったザイルに結び目があったので、使う事が出来ませんでした。

(13:15) やっとの思いで 1172m の金北山に登頂！頑張ってきたお陰で佐渡島の素晴らしい景色を一望する事ができ、気分爽快でした。

昼食後、防衛省管理道路(アスファルトの道)を下ってマツムシ平から白雲台(15:20)に到着！ご褒美にソフトクリームを頂き疲れが取れました。(15:45)お迎えタクシーに乗って、大佐渡スカイラインを走り時間があつたので、東洋一の選鉱場跡・50m シックナーを見学した後、今夜の宿道遊に(16:30)到着しました。

<豆知識>金北山は低山でありながら高山植物が多いのは、気候(豪雪)と熊・イノシシ・鹿などの動物がいない為、植物が守られているそうです。

5月19日(木) 今日、2日間の山歩きを終えて楽しみにしていた佐渡島観光です。やはり佐渡と言えば金山ですね！洞窟の中は肌寒く上着を着て見学をしました。一周した所に透明のケースに入った 12kg の金塊を握り拳大の穴から取り出す挑戦があり、5月だけでも 27 人成功され内女性が 2 名いました。因みに、私たちグループには誰もいませんでした(≧▽≦) 道遊の割戸の雄大な景色をみてこれが機械も使わず人力だけで掘り割れたそうです。昔の人の努力には頭の下がる思いです。この人たちのお陰で徳川 300 年を支えて来れたんですね。凄い！



おけさ観光タクシーに 11:00 に迎えに来て頂き、尖閣湾巡りで印象に残ったのは、弁慶のはさみ

岩や夫婦岩で「6月20日に来ると夫婦岩の間から夕日が見れるんですよ」とお土産屋さんのご主人が教えて下さいましたが行けません！遠くて(≧▽≦) タクシーの運転手さんが「折角佐渡に来たんだからタライ船に乗りなさい」と案内して頂いたんですが、修学旅行生と鉢合わせで時間的に合わず、次の小木(田中陽希さんも乗られたそうです)で乗る事が出来、漕ぐ体験は無かったが思いの外安定しているものなんだなあ〜と感じました。(出来れば漕いでみたかったなあ〜)

トキに会えるのを楽しみにトキの森公園に行きましたが、フェンス越しに観るトキはハッキリ観ることが出来ず残念でした(≧▽≦) 今回は、小佐渡にはまわれませんでした。予定していた大佐渡の観光は全て終え、みなみ旅館まで送って頂きました。最後の宿泊でお料理も素晴らしく旅館のご主人が撮られた DVD を観せて頂き、さすが色んなお花やトキの姿もバッチリでした。

旅館の近くにトキがいると聞き探しに行きましたが会えませんでした。トキの巣の下のお家の人から朝早く鳴いているとの情報を聞き、4時過ぎに海岸で朝日を見てから、トキの巣の下で待ち構えていると、なんと鳴き声と共に飛び立つトキ発見！田んぼで餌を食べているトキを写そうと近づいたのですが飛び立ってしまいました。後でHさんに「看板に近づいたらダメって書いてあるよ！」と知らされました。ごめんなさい^_^ トキ(桃花鳥)が特別天然記念物に指定されて 70 年！この目に焼き付けて佐渡とお別れです。

若女将に両津港迄送って頂き、9:30 のジェットフォイルに乗り、おけさの灯台(笠をかぶっている)を後に新潟港 10:37 着き、最後の新潟を 2~3 時間食事とお買い物をして、新潟トキ

322号13:20ー東京15:28・ひかり519号16:03ー姫路19:39着。それぞれの降車駅にて帰路に着きました。

この度滅多に行けない佐渡に誘って頂いた、リーダーFさんそれに何ヶ月も前から計画を立てて頂いた方々に感謝します。本当にお天気も良く素晴らしい佐渡ヶ島山行が出来た事に、感謝！感謝！です。ありがとうございました。

■利神城ガイドツアー

●日 程：5月15日(日)

●参加者：L森本 SL小田 阿部 泉 兼本 黒本 島谷 田中(重) 徳本 春本

●行動記録：平福駅(9:25着)9:30発～道の駅「宿場町平福」(9:50着)10:10発～利神城登山口(10:25着)～利神城址(11:30着)12:40発～利神城登山口(13:45着)～道の駅「宿場町平福」(14:15着)

◆利神城ガイドツアーと平福宿場町散策

黒本

今回の山行は、私のリクエスト山行です。予報では気温24℃、降水確率0%薄曇りで山歩き日和です。西播磨の山城がブームとなり、利神城は、石垣の崩落の危険があり、入山が禁止されていますが、石垣の修復工事も一段落し、3月13日から天守丸までガイドツアーの参加者のみ登れるようになっています。

平福へは、姫路で集合してから岡山行きに乗り、上郡で智頭急行に乗り換え平福下車で行きます。智頭急行は、平日フリー切符で少しお得に乗れました。駅から少し歩いた所の道の駅に10時集合で受付後、お弁当を頂きツアー開始です。今回は、他のグループを含め22人の参加です。



「利神城」は、別名「雲突城」と呼ばれ、竹田城のように朝霧の出る季節には、雲の上に浮いたように天守が見えたそうです。山城から南西に延びる尾根から登り始めます。標高150m位から頂上373mなので、差は223mですが、中々の急登です。10分から15分歩いては、休憩を兼ねてガイドさんからの説明がありました。頂上からは360度見渡せ、平福の宿場町を通る因幡街道も見通せ、「砦」としての役割を担っていた事が十分に理解できます。

天守丸は、草原で大きな桜の木が3本ありますが、木陰が少ないので夏場のツアーは休止だそうです。足元を見るとダニのような虫が・・・、虫除けをスプレーしても効果があるのかなのか？(刺された人はいませんでした。)一人一脚の椅子の準備があり座って食事ですが、虫が気になり、落ち着いて食べられません。食事の後、写真を見ながら利神城のレクチャーを受け、13時過ぎに下山開始。三の丸で集合写真を撮り、ピストンで下りました。14時に平福の駅に着きツアー終了。そのまま帰宅する人、平福の町を散策する人に分かれました。

我々散策組は、旧街道を散策しながら宮本武蔵の初決闘地を周り、平福の郷土館に行くも平

日のため休館。道の駅で休憩中、ガイドさんが来られ、自慢の写真を色々と見せてくれました。帰りの電車は「あまつぼし」というイベント列車で、紫色ベースの車体に星空をイメージしたラッピング列車です。床・手摺り等の内装には地元の木材を使用しているので、少し高級感があります。

山城の歴史を知ることができ、旧街道の宿場町散策もでき、満足しています。いつもと違う山行でしたが、森本リーダーにいろいろ手配していただき感謝しております。私のリクエスト山行にお付き合い頂いた皆様ありがとうございました。

(後日記、ツアー参加者に記者の方がおられたようで、5月28日の神戸新聞夕刊にこのツアーの記事とメンバーの後ろ姿が写った写真が掲載されています。)

■市ノ池公園周辺でコンパス取扱実習 <初めての山歩き教室・実技Ⅲ>

●日 程：5月22日(日)

●参加者：L佐々木 1班 [サポート] 砂川(延) [教室生] 白井 宮本 八幡
2班 [サポート] 木村 [教室生] 松本(陽) 松本(由) 三木 宮下
3班 [サポート] 藤原(千) [教室生] 敷田 松岡 松田
4班 [サポート] 春本 [教室生] 菊川 木村
5班 [サポート] 尾内 藤井 [教室生] 稲見 岡田 岡林 奥藤

●行動記録：市ノ池公園(9:00着)コンパス取扱い説明～登り口9:40～分岐(9:55着)10:00発～P88(10:15着)10:25発～公園北端(10:45着)10:50発～馬の背登山口(11:15着)



◆初めての山歩き教室実技③コンパスの取扱

春本

初夏の陽気を思わせる5月22日、市ノ池公園みどりの相談所前に集合した。教室生の面々と指導にあたる担当者、計画書では5班に4名ずつグループ分けだったのが数名の欠員がありサポートの振り分けも変更ありで始まりました。

本日はイベントがあるらしくかなりの人出で、みどりの相談所周辺は混雑気味でした。

事前に概念図を周知されていても、こちらが初めての教室生の方々は準備装備もそれぞれで少しやりにくい方もいらしたと思う。二人あたり一つのコンパスと地図が配られ、使い方の説明から駐車場東端をスタートしてP88mを目標セットして、鉄柱高圧線を確認しながら自分の進むべき方向を実際に歩きます。辺りの地形と地図とのマッチングの解説を所々にリーダーがやられました。市ノ池公園北奥から馬の背尾根まで行く予定だったのが、登山口をすぎて午後からの座学に備え早めの休憩となりました。

この実習で紙地図とコンパスを使ったイメージが、実歩行による体験で理解できたのでしょう。

◆初めての山歩き教室サポートに参加

藤井

今回初めて、『初めての山歩き教室サポート 日帰り山行』に参加させていただきました。

5月22日は快晴。日差しはありましたが風があったため快適な1日でした。高砂には20年ほど住んでいますが、市ノ池公園へ来たのは初めてです。薔薇が咲き乱れ虫取りを楽しむ子供たちのなか、コンパスの使い方を教えて頂きました。

シルバコンパスをみるのも初めてです。地形図上の現在地と目的地にへりを合わせ、磁北線とリング底の矢印が平行になるように合わせる。

リング底の矢印の向きを磁針のNに合わせる。すると、トラベルアローが目的地方向を指している。説明をひとつお受け山道へ。山の中は緑が眩しく日陰になっている為快適でした。

地図を持って登り、ピークで止まってもう一度自分の位置確認。コンパスを合わせる練習をします。途中、馬の背がよく見える場所があり目的地がはっきりと確認出来ました。地図の読み方も説明を受けました。高御位はモコモコ（岩）マークが多いです。雨裂や広葉樹林、針葉樹、道路の幅など地図は全ての事が載っています。小学生の頃に覚えたであろう地図記号は記憶に残っていませんでした。

予定では馬の背へ行くようでしたが、早めに下山。それでも急な下りがあったため、下ろしたての登山靴が役に立ってくれました。次回の高御位縦走、楽しみにしています。

今回、30名程の大所帯でしたが新人5人に1名のリーダーがついてくださったため、質問があるとその都度聞くことが出来ました。また初めましての方々と、初心者お勧め登山の話やその近くのカフェなど楽しいお昼休憩を取ることが出来ました。様々な世代の方と、山という趣味で繋がりお話しできる事はとても楽しいです。これから沢山登山を楽しみたいです。

ありがとうございました。



■千ヶ峰（1005.2m）

●日 程：5月25日(水)

●参加者：A班 L瀧原 S L島谷 天野 小田 兼澤 黒本
B班 L春本 S L安田 田羅間 西脇 野村 本田

●行動記録：三谷登山口 9:35 発～雌瀧・雄瀧(9:50 着)～岩座神コース出合い(10:35 着) 10:40 発～千ヶ峰山頂(11:15 着) 12:00 発～岩座神コース出合い(12:25 着) 12:30 発～千本杉(13:11 着) 13:16 発～神光寺(13:26 着) 13:40 発～岩座神公民館(14:20 着)

◆播磨の名峰「千ヶ峰」に登る

野村

「千ヶ峰」アクセスは三谷登山口駐車場まで乗り合いましたので天野さんの車に同乗させて頂きました。宝殿駅を7:45 出発して春本さんの車と下山口の岩座神公民館で合流。

春本さんの車は公民館に残して天野さんのワンボックスカーで約1キロ先の標高400mの三谷登山口駐車場に9:20到着。

瀧原リーダーの山行計画にヤマヒル対策の注意が書いてあり、不安を感じタイトスを履いて参加した。ストレッチ後にリーダーから借りた「ヒル下がりのジョニー」をスプレーしてからのスタート。

三谷ルート之三谷溪谷沿いの登山道はヤマヒルの出没がネット上でも伝えられている。ヤマヒルに注意しながら途中たくさんのコケ類がある雌滝・雄滝と言った滝群を楽しみながら溪谷を登る。その後は植林帯の中の尾根筋を急登する。木組みの階段道の急登をひたすら登り「岩座神コース出合い」で休憩、「山頂まで40分」の標示を見ながら1000mの千ヶ峰山頂を目指す。

千ヶ峰1005.2mは東播磨の最高峰で「兵庫50山」と「ふるさと兵庫100山」の一つに選定されている。いつ誰が名づけたのか、千ヶ峰。その名称は付近に数多くの峰がそびえていることに由来すると伝えられている。

頂上からは360度の大パノラマ。あいにく霞んではいたが南方向の笠形山(939m)が見えた。東方向は加美区の集落を展望。お昼休憩は瀧原リーダー流の「ゆっくり山行」で爽やかな微風の1005.2m山頂を満喫して岩座神コースを下山。登山道や道標も植林も整備されていて頂上近くではウツギやドウダンツツジや藤の花が咲いており目を楽しませてくれました。岩座神コース終着点の県の天然記念物「千本杉」を見て「神光寺」で解散前のストレッチをして下山。



春本さんが岩座神公民館に駐車していた車で三谷登山口駐車場へ各ドライバーを送迎。その待ち時間を利用して日本の棚田百選の石垣の“棚田と七不思議の里「岩座神」”を見学させて頂いた。瀧原リーダーお世話になりました。ヒルの被害にも合わず梅雨入り前の好天気恵まれました。下山後、石垣の棚田は田植シーズンで水も多く素晴らしい風景に感動しました。ありがとうございました。そして車を出して頂いた皆様、アクセスにご苦労頂いた事と思います。お世話になりました。

春本さんが岩座神公民館に駐車していた車で三谷登山口駐車場へ各ドライバーを送迎。その待ち時間を利用して日本の棚田百選の石垣の“棚田と七不思議の里「岩座神」”を見学させて頂いた。瀧原リーダーお世話になりました。ヒルの被害にも合わず梅雨入り前の好天気恵まれました。下山後、石垣の棚田は田植シーズンで水も多く素晴らしい風景に感動しました。ありがとうございました。そして車を出して頂いた皆様、アクセスにご苦労頂いた事と思います。お世話になりました。

■氷ノ山・スズコ狩り

●日 程：5月26日(木)～27日(金)

●参加者：L砂川(延) SL佐々木 徳本 吉村

●行動記録：

(26日) JR加古川駅発9:30～氷ノ山国際スキー場(12:20着・昼食)～大段ヶ平[Ⓟ](13:00着)13:20発～大屋町避難小屋(13:55着)～神大ヒュッテ(14:20着・泊)

(27日) 神大ヒュッテ6:15発～氷ノ山頂上(6:50着)7:00発～神大ヒュッテ(7:30着)～朝食(8:00～8:30)～スズコ狩り(8:30～9:30)～神大ヒュッテ(10:00着)～大段ヶ平[Ⓟ](10:45着)11:00発～R29(12:20着)～よい温泉昼食12:50～14:00～JR加古川駅(16:30着)

◆スズコを独り占め

砂川(延)

今年の氷ノ山筍（スズコ）狩りはコロナ禍の中で迎えたので、去年に引き続き諦めるのかどうか随分迷ったが、実施することにして、神大ヒュッテの申し込みを行った。

山行募集の結果は他の山行計画も多かったこともあってか、参加者が4人だったが実施することとした。

私の車1台で乗り合わせ、登山口である大段ヶ平登山口へ向かった。途中、奈良尾にある民宿「やねや」さんに、初めての山歩き教室終了山行・氷ノ山でお世話になるのでご挨拶に寄り道をする。いつもの笑顔で女将さんに迎えられ、晴々とした気持ちで大段ヶ平に向かうことができた。



いつもの大段ヶ平登山口駐車場に着くと何台かの車が止まっていた。登山口に近い手前のところに駐車して、神大ヒュッテに向かって出発する。途中、筍が芽を出していないか登山道の左右をキョロキョロ。神大ヒュッテに久しぶりに到着してみると、お借りする際に担当の先生から連絡があったようにテラスの一部が床抜けしており、ロープが張ってあった。鍵を開けて中に入るといつものヒュッテ内で特に変わったところはなく安心する。

夕食は途中のいつも立ち寄る但馬牛の肉屋さんで、これもいつも通り佐々木シェフの選択したビフテキ肉を購入、スーパーマーケットで、それぞれ好きな弁当と食料を購入してヒュッテにむかい、とりあえず昼食とする。

ヒュッテに荷物を置いて、さっそく夕食用にスズコを取りにヒュッテの周りを散策する。

水道がうまく出ないので、水源の取水口を点検に行き、取水口からヒュッテに伸びているホースをほぐしながらヒュッテに帰り見てみると水が出ていることが分かり、やれやれ。

翌朝、氷ノ山頂上にいつも通り上がってみるが、小屋がガスに深く包まれており、下界は何も見えず、早々にヒュッテに帰り、朝食とする。

夜遅くにかなり雨が降っていたようで、朝、テラスからは深いガスに包まれ何も見えない状況だった。朝食後、時間とともに青空がのぞくようになり、スズコ狩りに熱中する。

朝から天気が思わしくないこともあるのか、スズコを取りに上がってくる人もなく、我々の独断場となり、スズコも時期が良かったのか取り放題の状況で、直ぐにナップサックが一杯になった。行った日は曇り空で雨も予測されてが、雨は夜中に降り、翌朝には上がっており、帰りには快晴となった。あまり素晴らしい天気だったので、往路を帰らずに、29号線から山崎を経由して帰ることにして、林道を大段ヶ平から西へ29号線に向かう。林道がかなり荒れており、殿下コース入り口からは更に厳しく、かなり時間を食らうこととなった。

音水溪谷を抜けて、29号線のヘアピンカーブを抜けて山崎を目指す。途中、「しろうよい温泉」で入湯後、温泉の向かいにあるレストランで遅い昼食後、帰路についた。

今年も何とかお天気に恵まれ、スズコを取りには良い状況で終えることができた。ご参加のみなさんお疲れ様でした。

こぶしがたけ だいぼさつれい
■甲武信ヶ岳・大菩薩嶺

●日 程：5月29日(日)～6月1日(水)

●参加者：L尾内 SL上田 笹木 澤田(律) 島谷 三木(悦) 村上

●行動記録：

(29日) 信濃川上駅(14:25 着)14:35 発一毛木平(15:00 着)15:10 発～十文字小屋(17:30 着)

(30日) 十文字小屋 6:10 発～大山(7:10 着)7:20 発～武信白岩山(8:35 着)8:40 発～三宝山(10:25 着)11:00 発～甲武信ヶ岳(11:40 着)13:05 発～甲武信小屋(13:25 着)

(31日) 甲武信小屋 6:10 発～新道分岐(8:15 着)8:25 発～西沢山荘(10:25 着)10:40 発～西沢溪谷入口 10:50 発～竜神の滝 11:20 発～西沢溪谷入口 11:50 発～ドライブイン不動小屋(12:35 着・昼食)13:30 発～道の駅みとみ(13:35 着)13:45 発～ロジ長兵衛(14:30 着)

(1日) ロジ長兵衛 6:10 発～福ちゃん荘(6:40 着)6:45 発～雷岩(分岐)(8:00 着)8:20 発～大菩薩嶺(8:30 着)8:35 発～雷岩(分岐)(8:45 着)8:50 発～大菩薩峠(9:30 着)9:50 発～熊沢山 10:05 発～石丸峠 10:15 発～ロジ長兵衛(11:35 着・昼食)12:40 発～塩山駅(13:00 着)13:23 発

◆四年越しの夢、やっと叶う

笹木

4年前から毎年計画されながら、悪天候やコロナ禍で断念せざるを得なかった甲武信ヶ岳にやっと登ることが出来た。これも、毎年粘り強く計画して下さった尾内リーダー始め同行して頂いた皆様のお陰と感謝している。さらに、同じ行くなら、笹本稜平の小説「春を背負って」に出てくるアズマシャクナゲの群生を見たいと思っていたが、今回時期もドンピシャ、天候にも恵まれ、まさに願ったり叶ったりで、大満足の山行となった。前半3日間の行程を振り返る。



29日、登山口、毛木平から十文字小屋までは二時間の道のりだったが、八丁坂を登る辺りは結構登りごたえがあった。やっと十文字峠に着き小屋が見えてくると、周り一面がシャクナゲのピンク色に染まっており歓声が上がった。良かった！丁度見頃である。小屋に入る前に主人お勧めのシャクナゲ群生地「乙女の森」にも行って見たが、こちらは木立に囲まれ日陰になっているせいかまだ開花していなく残念だった。十文字小屋は昔ながらの山小屋といった風で、土間には大きなストーブがあり、上り口の狭い板の間で夕食をいただいた。寝屋は三段ベッドで12床。垂直の梯子で登る三段目は流石に怖い高さだったが、7人なので1～2段で十分足りた。ストーブを囲んで談笑している他の客の声を聞きながらいつしか入眠。よ～く眠った、と目覚めたらまだ11時だった。外に出ると星が近くて大きくて、普段は見ることのない夜空に見入ってしまった。明日もいい天気だ。

6時に小屋を出発。甲武信ヶ岳までの登りは、長野、埼玉の県境を辿って行く。途中大山への登りは張り出した木の根がいっぱいで足の運びに苦労した。途中お尻の形をした巨岩がありみんな大はしゃぎ、並んで後ろを向いて写真を撮った。その後、長い登りを経て三宝山(一等三角点がある埼玉県の高尾山の最高峰)に着いた。頂上は少し開けた大地になっており、ゆったり座って昼食をとった。展望は良くなかったが、端の方でリーダーが「ここから覗いてみて！感動するよー！」の声にみんな集まってその方向を覗くと、目の前にポカンと大きな富士山が・・・感動～！そして、その手前に堂々と同じ形をして甲武信ヶ岳が並んでいた。

そこから甲武信ヶ岳まで一時間半、ひたすら登って登って予定コースタイムで山頂に着いた。一気に視界が広がり東南に少し雲がかかった富士山、遙か遠くに雪を被った南アルプス、西方向に以前登った奥秩父の山々、国師が岳から金峰山へ続く稜線も懐かしく迎えることが出来た。登山者もまばらで時間があつたので、心ゆく迄景色を堪能し、写真を撮り、甲武信ヶ岳指標の前のベンチに並んで腰かけておしゃべりに花が咲いた。

そこから 30 分下りた所に甲武信小屋があった。こんな早い時間に着くことはないの、またまた外のテラスでゆっくりお茶を楽しんだ。甲武信ヶ岳は日本の中央分水嶺で日本一の長さの信濃川の最初の一滴を落とす山である。



頂上から 270m 下った所に千曲川信濃川水源地標がある。私はそこに行ってみたかったが、宿の主人曰く、ちょっと距離があり行きづらいので小屋の裏手に新しく水源地碑が建てられている、と教えてもらって行って見たが、水の一滴もなさそうな所に立派な御影石の石碑が建っていて興奮した。寝屋は屋根裏の大部屋でござ寝、それでも布団一枚以上のスペースでゆっくり眠ることが出来た。

31日、夜半から大雨が降って、出発時も小雨が続いており、カッパを着て出発した。戸渡り尾根では雨に濡れたカラマツの新緑が目染むようだった。進む先々にシャクナゲのトンネルがあり、標高が高い辺りでは蕾が多かったが、下りるにつれて開花した花が目立ってきた。雨に濡れたピンクの花弁は鮮やかで可憐で殊のほか綺麗だった。

急坂と覚悟していた徳ちゃん新道は、赤土が雨に濡れて滑りやすく、木の根っこや石コロも多く、滑らないよう石を落とさないよう一步一步慎重に下った。ほぼ予定タイムで下りてきたので、西沢溪谷を二時間散策することが出来、新緑と青い水をたたえた溪谷の流れはとても美しく爽やかで、疲れを癒してくれたひと時だった。

溪谷を出たところの食堂で山菜そばを食べた。私たちが一番の客だったのか慌てて作って下さった揚げたてのコンフリーの天ぷらが目新しく美味しかった。

道の駅からタクシーで今夜の宿、ロッジ長兵衛に向かった。明日は大菩薩嶺だー。

◆大菩薩嶺と絶景

島谷

最終宿泊“ロッジ長兵衛”では、おいしいお食事と丁寧なおもてなしで疲れた身体を休めることができました。談話室での各人の思い出話では、夏山へ向けて気持ちが高揚します。

さて4日目、大菩薩嶺へつづく林の中は低いクマザサとカラマツが美しく、前日の雨のおかげでいきいきとした緑が目には優しいです。森の中でホトトギスの声が響き、鹿の家族を見かけ、いよいよ見えてきた南アルプスにくぎ付けになりました。木の間から富士山が望めた時は一同



「わぁ」と声をあげ、標高が上がるに連れて次々と現れる撮影スポットで時間をとってもらいました。

気温上昇とともに富士山頂が雲にかくれることが多いらしく、早い時間が撮影勝負です。

山頂手前の雷岩では絶景が待っていました。

西をみると南アルプス、甲斐駒・仙丈に続く鳳凰三山・その後ろの雪の北岳・間ノ岳・農鳥・塩見・荒川・赤石等に続き、その延長上に神々しい富士山！前日の談話室でのお話しの山々が、目に見える形でドドーンと私達の前にありました。

行った山を思い出す人、これから目指す山を思う人、再び行くぞと決意した人、七人七様の思いで過ごしました。この幸運を「4年待ったから。」「行いが良かったんや。」と言い、そして「しんどいことがあったら、これ思いだそう」とどなたかの言葉が聞こえました。

大菩薩嶺・大菩薩峠を過ぎ、下山では鳥・虫・蛙、様々な声を聞きながら気持ちの良い森歩きができました。

リーダーはじめ仲間の皆さまのおかげで、また新たな感動をいただいた山行でした。

■高御位山

<初めての山歩き教室・実技Ⅳ>

●日 程：6月5日(日)

●参加者：[サポート] L安田 SL尾内 木村 砂川(延)

[教室生] 稲見 江崎 岡田 岡林 奥藤 菊川 北川 木村 小林 敷田 柴田 田中
松岡 三木 宮下 八幡

●行動記録：みどりの相談所 9:40～登山口 9:45～尾根分岐(10:20 着)10:30 発～高御位山神社
(11:10 着)11:35 発～長尾登山口(12:05 着)～みどりの相談所(12:25 着)

◆第4回 高御位山 登山レポート

教室生・奥藤

本日は『初めての山歩き教室』第4回目の実技の日です。参加者は砂川会長はじめサポート4名と教室生16名の総勢20名での山行となりました。2班に分かれての実施となり、私は先発部隊のA班で出発しました。

天候は曇りで日差しが閉ざされ気味の絶好の登山日和で足どりも快調、今日は楽勝だなあ・・・とはいきません。序盤も登りの途中から気温も上がってきたみたいで、額や背中、次第に体中から汗が噴き出す始末。だんだん足も上がらなくなり、躓き気味でのペースダウン。と言うところで尾根に出て、一回目の休憩となりました。ここでは元気な犬にあったような。



その後は、時折吹いてくる涼しい風を感じながら尾根伝いに何とか頂上へ

辿り着き、大休止。途中、心を癒してくれる可憐な笹ユリ一輪に出会いました。頂上ではボランティアでトイレ等に使用する水の歩荷作業しているオジサンにお話を伺いました。感謝・感謝！

下りは膝のダメージを庇いながらのよたよた歩きで下山。舗装道路を歩いてとぼとぼセンターまでと思いきや、最後の最後に笹藪の中の登り道というカウンターパンチが待ってました。

山行終了後、教室生で集まり昼食タイム。それぞれの登山スタイル、今後山遊会に入会する？等の会話をしている内にちょっと肌寒い風が・・・。そろそろ雨かなあというところで本日は解散となりました。

最後に、山遊会の皆さまには次回からもご教示の程宜しくお願い致します。

■高森ボランティア活動

●日 程：5月21日(土)

●集合場所・時間：旧アクア交流館前駐車場・午前9時

●参加者：阿久津 天野 生永 上田 内海 佐々木 島本 荘所 砂川(延) 須増 春本 平井 待場 三木(悦) 森下

報告：荘所

旧アクア交流館前駐車場に集合して飯盛山東登山口へ移動して、登山口の入り口から作業を開始して二つ目の鉄塔までの登山道の整備作業・主に草刈り作業を行った。

当日は気温も高く、長い距離の作業となり参加のみなさん、お疲れ様でした。

今回の高森ボランティアも土曜トレを合わせて実施し、二つ目の鉄塔から旧アクア交流館前駐車場へ下山して、作業を終了した。